淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.97　2022 年 3 月発行

〈 社会人の窓 17 〉

淀川水系の自然と人の関わり

竹門 康弘

淀川水系はヨドゼゼラやナカセコカワニナなど多くの固有種の棲む自然豊かな水系でありながら、流域内に 3 つの府県庁所在地がある都市河川でもある。明治以降の流域開発によって絶滅した種もあるが、現在も希少種や絶滅危惧種が棲む水域であり続けている。京都や大阪が日本の首都や経済の中心地であったことに鑑みれば、これらの生物多様性を保持できたことは驚異的である。そのような人為影響下で生き延びてきた生物たちの例を見てみよう。

淀川水系には、湖から流出する河川だけに生息するスイドウトビケラが生息している。このトビケラの幼虫は、大きなドーム状の網を張り内部に落下する動物プランクトンを捕食する。元々琵琶湖の出口の瀬田川だけに生息していたが、琵琶湖疏水、宇治川発電所、天ヶ瀬ダムの建設によって湖の出口が蹴上と宇治にも出現した結果、スイドウトビケラは疏水と宇治川にも分布を広げた。

淀川水系には氾濫原に適応した動物が多い。中でもイタセンパラやアユモドキは巨椋池を拠点に淀川三川に広く分布していた。両種の稚魚は、春先の増水で冠水する一時的水域で育つため、河道-氾濫原の連続性と季節的な水位変動が必要となる。今やそのような環境はほとんど失われ、現在のイタセンパラの生息地は舟運のための水制によって形成された城北ワンドに、アユモドキの生息地は亀岡駅前の水田灌漑のための可動堰によって生じる小さな氾濫原に限られている。

国の天然記念物に指定されている深泥池（みぞろがいけ、みどろがいけ）は、淀川水系における生物多様性ホットスポットの一つである。深泥池の生物多様性の高さは、昨年 1 年間だけで 46 種のトンボが確認されたことからもわかる。深泥池は、京都市内の市街地に隣接しており、平安時代以前から池や集水域の草木が燃料や生活材に利用され続け、江戸時代の人口爆発に伴い周辺植生がアカマツ林化した。このような生産物の利用システムが、深泥池の水質を貧栄養に保ち、希少種の多くが生育生息するミズゴケ湿原の浮島形成に寄与したと考えられる。

淀川三川には、琵琶湖産の陸封アユと大阪湾産の海産アユの双方が生息している。2000 年代に入り、鴨川に遡上する天然海産アユが見つかり、水産資源としても注目されるようになった。その後、淀川から大阪湾に降るアユ仔魚の 9 割以上が木津川由来であること、そのうち毛馬水門から大川に降ったアユはほとんど戻れず、新淀川に降ったアユが淀川大堰の魚道を通って遡上できることがわかった。これは、治水のために人工的に掘られた放水路の方がアユの生息場に適していることを示している。

木津川は集水域の風化花崗岩が生産する真砂土のため全国でも屈指の砂河川である。都市近傍にありながら広大な裸地河原がみられ、カワラ〇〇と名付けられた生物が多数見られる。しかし、1960 年代の砂利採取と高山ダムの建設によって河床低下や低水敷と高水敷の二極化が進行している。木津川の自然環境を健全化する対策として、上流ダム群の堆砂の下流還元とともに、中聖牛や竹蛇籠水制などの伝統的河川工法を活用した河床の土砂管理が望まれる。

以上の例は、人為影響下で暮らす生き物の強かさ（したたかさ）と、彼らの生息環境を積極的に改善する必要性を示している。淀川水系の自然と人の関わりを追究することは、自然と都市の共存原理解明につながると期待される。

（京都大学防災研究所 准教授・京の川の恵みを活かす会 代表・理学博士）

参考文献

田住真史・角　哲也・竹門康弘（2018）伝統的河川工法「聖牛」に関する知見の整理と木津川における試験施工. 京都大学防災研究所年報 61B：748-755.

イベント報告

淀川愛好会　総会

2022 年 2 月 26 日（土）11 時から 12 時に、摂南大学都市環境工学科会議室で淀川愛好会の総会が開催されました。会員の方々と学生を含めた 8 人の参加がありました。総会では新旧会員の自己紹介から始まり、2021 年度の事業報告、2022 年度の事業計画などについて話し合われました。

2021 年度は新型コロナウイルスの影響により、多くのイベントが中止となってしまいましたが、2022 年度は計画通りにイベントが開催できることを祈っています。（O・S）

総会の様子

2021 年度事業報告

日程	内容	開催場所
5 月 15 日（土）	琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪	大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
10 月 16 日（土）	ハイキング	京都市伏見区日野
2 月 26 日（土）	総会・近畿河川フォーラム・淀川討論会・水防災セミナー	摂南大学 寝屋川キャンパス

2022 年度事業計画

日程	内容	開催場所
4 月末頃	春のイベント	未定
5 月 28 日（土）	琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪	大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
6 月頃	ホタル観賞会	未定
10 月・11 月頃	秋のイベント	未定
1 月 7 日（土）	総会・新年会	未定
2 月 25 日（土）	近畿河川フォーラム・淀川討論会	摂南大学 寝屋川キャンパス

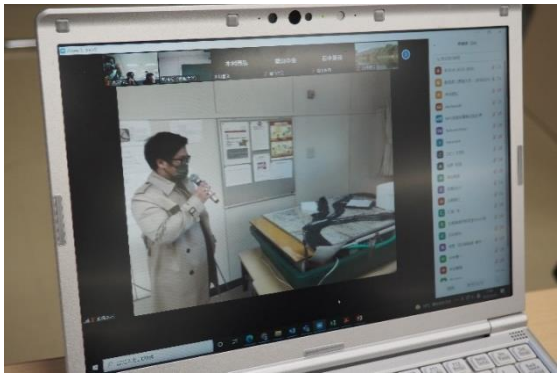
第６回 近畿河川フォーラム　兼　第 24 回 淀川討論会　＆　第 16 回 水防災セミナー

2022 年 2 月 26 日（土）14 時から 17 時に摂南大学寝屋川キャンパスにて、近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会が主催する第 6 回近畿河川フォーラム兼第 24 回淀川討論会&第 16 回水防災セミナーが開催されました。新型コロナウイルス対策として、会場とオンラインの両方での開催となり、併せて約 40 名の参加がありました。

大阪府生物多様性センターの上原一彦氏に基調講演を行っていただき、生物多様性の現状、放流の課題などについてお話していただきました。そしてオンラインを通して、近畿だけでなく、全国の河川協力団体の動きなどについての発表がありました。また、参加団体からの活動紹介が行われるなど、非常に内容の濃い会となりました。

今回、私は河川フォーラムのスタッフとして、このイベントに出席させていただきました。スタッフとしての仕事の合間に河川の生態系や整備の取り組みのお話を聞かせていただきました。普段の学生生活ではあまり聞かないような詳細な話を聞くことができて、とても興味深く、貴重な経験ができたと感じました。質疑応答や意見交換会の様子も拝見させていただいたのですが、様々な意見や質疑が飛び交い、皆様の河川に対する大きな想いや熱意を感じました。また、今回はスタッフとしての仕事の引継ぎも兼ねて、来年度の石田ゼミの学生も参加させていただきました。メンバーは変わってしまいますが、来年度も石田ゼミをどうぞよろしくお願いいたします。（D・K）

会場の様子



配信中の様子

木津川・開橋上流に中聖牛を設置

2022 年 1 月から 2 月にかけて、やましろ里山の会が主催となり、木津川・開橋上流の左岸砂州に 1 群 4 基の中聖牛が設置されました。この地区では、中聖牛により陸地化した左岸砂州の冠水頻度を上げることを目的としています。2 月 27 日（日）11 時より、淀川河川事務所所長にもご出席いただき、竣工式が開催されました。当日は NHK テレビの取材もあり、翌朝の全国ニュースでも報道され、多くの人に中聖牛の取り組みが知られたことと思います。（I・Y）

開橋上流に設置された中聖牛

流域見聞バスツアー「水車」

2022 年 3 月 12 日（土）10 時から 17 時まで、水辺に学ぶネットワークが主催する“活かそう水辺、つなごう流れ”水辺に学ぶネットワーク流域見聞ツアー「水車」が開催されました。

京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー本館前に淀川愛好会等のメンバーと摂南大学の学生合わせて 35 名が集合して、趣旨説明と第 2 実験棟内にある小型（直径 1m）と中型（直径 2m）の水車とビオトープ等を見学した後、東近江市にバスで移動して、能登川カヌーランド大型水車（直径 5m、13m）と水車資料館の見学をしました。また、甲良町の下之郷小型水車群（直径 1m）を見て、多賀町の多賀大社に参拝しました。参拝後、東近江から久御山・淀に移動して、京阪電車淀駅前の水車モニュメント（直径 5m）を見学しました。

能登川水車資料館 大型水車

水が流れていない水車がいくつかありましたが、地域の水路を上手く利用している町もありました。現代において水車はモニュメントとしてだけではなく、地域の活性化やまちづくりに水車を活かそうとしていることが理解ができました。

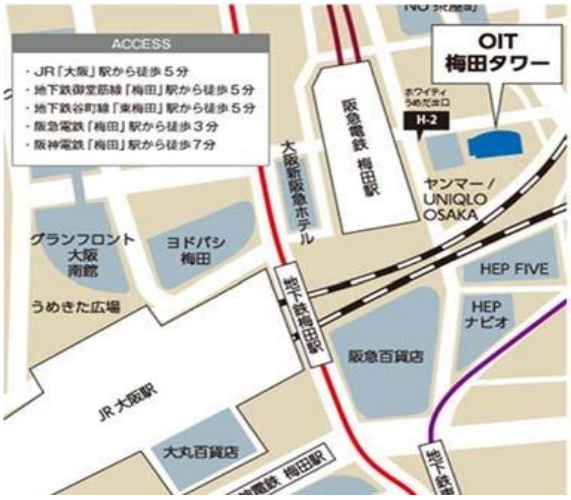
（H・K）

今後のイベント案内

第４回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪　兼　第 24 回 近畿水環境交流会

～気候変動について考える（仮）～

日時：2022 年 5 月 28 日（土）12:30～17:00
場所：大阪工業大学梅田キャンパス（OIT 梅田タワー）2 階
内容：12:30 ポスターセッション
　　13:30 講演
　　田中賢治氏
　　（京都大学防災研究所　水資源環境研究センター准教授）
　　田浦健朗氏
　　（気候ネットワーク　事務局長）
　　16:00 総合討論
　　17:00 閉会
主催：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会
共催：摂南大学
協力：学校法人常翔学園
参加費：無料
申込先：淀川愛好会事務局



〈 学生の窓 17 〉

１年間を振り返って

奥野　誠一朗

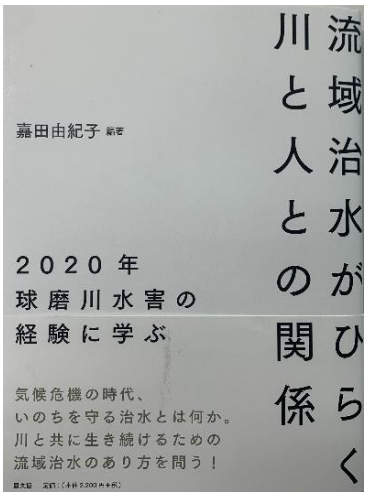
私は大学に入って初めて土木について学び、その中で河川の防災という分野に強く興味を持ちました。そしてこの１年間は、それらを深く勉強するために摂南大学石田ゼミに所属し、卒業研究として、巨椋池遊水地を活用した洪水解析というものに取り組みました。この卒業研究を通して、河川の怖さ、水害対策の難しさなどについて今まで以上に深く理解することができました。

また、私は４月から国土交通省近畿地方整備局に入省し、以前からの憧れであった府県を超えるような一級河川の整備などの仕事に取り組む予定です。これからは卒業研究で学んだことを仕事に活かして、誰もが納得し、安心できるような街づくりができるように頑張っていきたいと思います。

（摂南大学理工学部都市環境工学科４回生・就職先：国土交通省近畿地方整備局）

新刊書籍紹介

「流域治水がひらく川と人との関係　2020 年球磨川水害の経験に学ぶ」



第１章　2020 年７月４日球磨川水害　現地溺死者調査の方法と経過　　嘉田由紀子

第２章　何が生死を分けたのか――現地溺死者調査の報告
つる詳子・市花由紀子・木本雅己

第３章　球磨川水害と流域治水　　島谷幸宏

第４章　「流域治水」の歴史的背景、滋賀県の経験と日本全体での実装化に向けて
嘉田由紀子

第５章　流域治水に求められる専門家の視点

民衆の知恵・水害防備林を見直そう！「流域治水」の問題点とこれからの治水のあり方
大熊　孝

人命最優先の流域治水には地域主権改革が必要　　宮本博司

治水のあり方から考える流域治水の重要性と球磨川水系河川整備計画への提言
今本博健

第 43 回熊日出版文化賞受賞　編著者：嘉田由紀子　出版社：農文協　発行：2021 年 11 月 20 日　定価：本体 2,200 円＋税

会員募集・寄稿・会費納入のお願い

本会では、淀川に興味・関心のある方の「ご入会」をお待ちしております。ご入会を希望される方は淀川愛好会事務局へ随時ご連絡下さい。「社会人の窓」への投稿も随時募集しています。

会員の方は、今年度の年会費 3000 円（学生 1500 円）を納入していただけるようにお願いします。

会費は事務局にお届け下さるか、下記の口座にお振込みください。

銀行振込口座：りそな銀行　寝屋川支店　普通預金　口座番号 2230030　口座名義　淀川愛好会

編集後記

パンデミックによる緊急事態宣言は、淀川愛好会にとってイベントのない悲しい事実の２年間でした。人間の経済活動によって森林破壊を起こしたことが、ウイルスを世の中に招いてしまったことだと私は思います。

じつに、うれしい！淀川愛好会の流域見聞が２年ぶりに開催され、ガラスのように澄んだ青空の中、心地よい琵琶湖湖東の流域見聞ツアーでありました。

今後は、テレワーク等による寂しいイベントにならないことを多賀大社にお祈りすることが出来ました。

１年間、編集員として頑張っていただいた奥野誠一朗君と永野拓登君には心から感謝します。ありがとうございました。

編集長　岡崎善久（岡崎善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508　寝屋川市池田中町17-８　摂南大学理工学部都市環境工学科　石田研究室内
TEL/FAX：072-839-9125
HP：　http://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/
E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp